

第52回 県下小中学生剣道基本競演大会 試合要領

1 試合内容

- (1) 小学生の部〔高学年（5・6年生）、中学年（3・4年生）、低学年（1・2年生）〕・中学生の部ともに団体試合とする。
- (2) 小、中学生ごとに予選リーグ、決勝トーナメントにより順位を決定する。
- (3) 予選リーグでは、切り返し、打ち込み稽古を先鋒から順に両チーム同時に行い、個人間の勝敗は判定とし、チーム間の勝敗は勝者数法により決定する。
- (4) 予選リーグでの試合方法は下記のとおりとする。

ア 小学生（高学年・中学年）、中学生ともに、主審の合図により先鋒の選手から切り返し、打ち込み稽古を下記により続けて行うが、元立ちの順番は次のとおりとする。

(ア) 小学生（高学年）、中学生 ①大将・②先鋒・③次鋒・④中堅・⑤副将

(イ) 小学生（中学年） ①大将・②先鋒・③中堅とする。

(ウ) 切り返し・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち。以上2回繰り返す。

(エ) 打ち込み稽古・・・切り返し終了後に指定した打突を行いその後、自由打突とする。指定の打突順は次のとおりとする。

①面 ②小手 ③小手→面 ④小手→面→胴

⑤面→体当り→退面 ⑥小手→面→体当り→退面

以上を1回行い、その後は元立ちが与える打突の機会をとらえて打ち込む。

※ 切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る。（元に戻らない）

(オ) 時間は、切り返し、打ち込み稽古を含み小学生（高学年、中学年）、中学生ともに40秒とする。（各コートの時計係が計時を行う）

イ 小学生（低学年）は、主審の合図により先鋒の選手から切り返し、打ち込み稽古を下記のとおり続けて行うが、元立ちの順番は次のとおりとする。

(ア) 小学生（低学年） ①大将・②先鋒・③中堅とする。



※ 小学生（低学年）の元立ちは、切り返しの際に上記の写真のように竹刀を真直ぐ立てて持ち、掛かり手は下記のとおり左右面を打つこととする。

（イ）切り返し・・・・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち。以上1回。

（ウ）打ち込み稽古・・・・・・切り返し終了後に指定した打突を行う。

指定の打突順は次のとおりとする。

①面 ②小手→面 ③面 ④小手→面 ⑤面を行う。（時間は計時しない）

※ 切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る。（元に戻らない）

(5) 準決勝・決勝トーナメントでの試合方法は下記のとおりとする。

ア 小学生（高学年、中学年）及び中学生の準々決勝まで剣道基本競演大会試合要領に基づき行う。

イ 小学生（高学年、中学年）及び中学生の準決勝、決勝は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則と同細則及び、本大会試合要領により行う。

（ア）試合時間は小学生2分、中学生3分、3本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は引き分けとする。

（イ）勝者数が同数の場合、取得本数の多いほうを勝ちとする。

（ウ）取得本数も同数の場合には、任意の代表により代表戦を行う。代表戦の試合時間は小学生2分、中学生3分、1本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は、2分区切りで、勝敗の決するまで継続する。

ウ 小学生低学年の部は、決勝戦まで基本競演で行う。

(6) 補員との交代は認めるが、一度交代した選手の再出場は認めない。

(7) メンバー不足については以下のとおりとする。

ア 5人制の場合：4名出場ならば次鋒を空け、3名出場ならば次鋒、副将を空ける。

イ 3人制の場合：2名出場ならば、中堅を空ける。

2 基本競演試合及び審判要領

(1) 試合開始及び終了時の相互の礼は選手全員が剣道具を着け、竹刀を持って行う。

(2) 試合の開始は、9歩の間合いで立礼をした後、開始位置で蹲踞し主審の「始め」の号令により切り返し、打ち込み稽古を行う。

(3) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、立って構えたまま判定を待つ。

(4) 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。（判定は基本競演判定の基準に基づく）

(5) 審判員は主審の「判定」の宣告で、勝者の紅白いずれかを挙げる。

(6) 主審は副審の旗を確認し、「勝負あり」と宣告する。（判定に引き分けは認めない）

(7) 補員との交代は認めるが、一度交代した選手の再出場は認めない。

3 基本競演判定の基準

- * 所作・礼法・着装等ができ、充実した気勢で身体を大きく使い、強く、正しく速く、刃筋正しく、軽やかに気剣体一致の打ち方であるかを総合的に判定する。尚、詳細は次のとおり。

(1) 切り返し

- ア 竹刀の振り方は正しいか。
- イ 足の運びは正しいか。(退き足が歩み足にならないか)
- ウ 左右面を打つ角度が約45度になっているか。
- エ 「正面打ち」の時、一足一刀の間合いから打っているか。
- オ 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。
- カ 「左右面打ち」の時、左こぶしが正中線を通り、相手の見える所まで上がっているか。
- キ 「正面打ち」の時、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みずおち)に納まっているか。
- ク 最後まで気合いと体勢が崩れていないか。

(2) 打ち込み稽古

- ア 気剣体が一致した打突であるか。
- イ 足さばきが正しいか。
- ウ 間合いの取り方が適切か。
- エ 最後まで気合いと体勢が崩れていないか。
- オ 残心(気構え、身構え)をとっているか。

- (3) 小学生(高学年、中学年)及び中学生の部において、切り返し、及び指定された打ち込み稽古が時間(40秒)内に終了しない場合は減点とする。

(4) その他

竹刀の検査は行わないが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行うこと。特にビニールテープ等を巻いた竹刀は使用させないこと。